

# 石川県立美術館だより

平成15年10月1日発行 第240号

## 石川県立美術館開館20周年記念号



赤楽茶碗 銘 早船 楽長次郎  
(2・3ページ「企画展示室(第7~9展示室)」参照)

石川県立美術館開館二十周年記念  
**畠山記念館名品展**  
茶道美術を中心に

十月四日(土)~十一月三日(月・祝)  
会期中無休



国宝 煙寺晩鐘図 伝牧谿  
(2・3ページ「企画展示室(第7~9展示室)」参照)

### 目次

畠山記念館名品展 茶道美術を中心に ...2~3  
尊經閣文庫名品選(前田育徳会展示室).....4  
秋の優品選(第2~6展示室).....4  
常設展示室 主な展示作品 .....5  
第33回文化財現地見学参加者募集.....6

展覧会回顧(石川の昭和40年代).....6  
ギャラリーコンサート .....7  
移動美術展、10月の行事案内 .....7  
所蔵品紹介、畠山記念館名品展関連行事他 ...8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

10月4日(土)~11月3日(月・祝) 会期中無休

主催/石川県立美術館 後援/裏千家淡交会石川支部・表千家同門会石川県支部  
宗和流家元・遠州流石川支部・宗廟流石川支部  
大日本茶道学会金沢支部

開館二十周年と

畠山記念館名品展

嶋崎 丞(当館館長)

昭和五十八年秋に開館した当館は、本年で二十周年を迎える事になりました。当館は設立の目的に「地方色豊かな美術館づくり」を使命とする事を謳っており、この地に育まれた美術の伝統を運営の柱としてきました。当館が設立された頃は、日本経済の成長がピークに達した所謂バブルの絶頂期で、多くの県立美術館では海外の印象派以降の近現代美術や、日本近現代の著名な作家の作品を競うように収集展示していました。そうした状況の中にあつて当館の行き方は時代の流れに逆行した運営として一部の方々から批判を受けたことがありました。

伝統というと、つい古いものという考え方を抱く方がありますが、伝統は今日に生きている姿であり、他の何物にも代え難い優れたものを持っています。伝統の中にこそ新しい発見があり、それを活かすことが今日の創造に繋がることを忘れてはならないと思います。地方の時代を迎えた今日、地域の優れた芸術文化を活かして魅力ある地域づくりを行う事が、地域文化行政の在り方であり、その一翼を担うのが地域公立美術館の役割であるとする主旨からすれば、私共の二十年間の歩みはまさにその通りの運営であつたのではないかと思つています。

そうした意味で、二十周年記念展も、石川・金沢の伝統文化の柱である茶道美術で飾ることにしました。ご出品賜つた畠山記念館のコレクションには、加賀藩時代からの石川ゆかりの著名な茶道美術品が数多く含まれています。あらためて畠山記念館の皆さまに深く感謝申し上げます。

主な展示作品

(●) 国宝 重要文化財 重要美術品

大慧宗泉墨蹟 尺牘 南宋時代  
虚堂智愚墨蹟 偈語 南宋時代



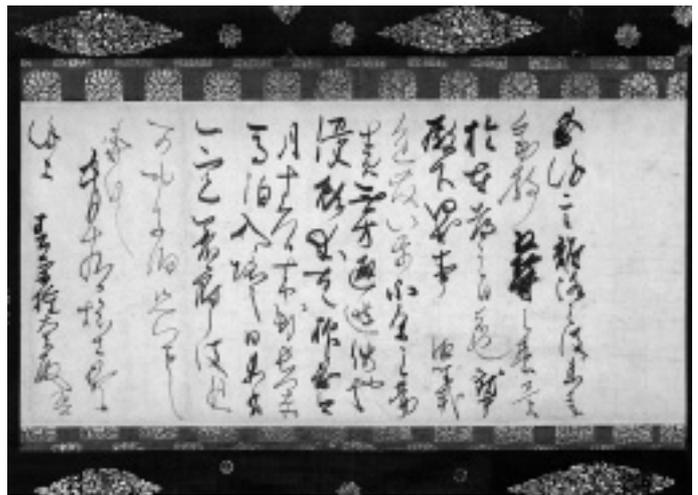
国宝 林檎花図 伝趙昌筆



重文 井戸茶碗 銘細川



重文 蓬 山時絵沈箱



国宝 藤原佐理書状 離洛帖



黄瀬戸輪花平向付

石川県立美術館  
開館20周年記念

# 畠山記念館名品展

## 茶道美術を中心に

- 無字祖元墨蹟 尺牘 鎌倉時代
  - 南楚師説墨蹟 送別語 元時代
  - 宗峰妙超墨蹟 法語 鎌倉時代
  - 藤原佐理書状 離洛帖 平安時代
  - 継色紙「きみをおきて」 伝小野道風筆 平安時代
  - 金銀泥四季草花図下絵和歌巻 宗達(下絵) 光悦(書)
  - 林檎花図 伝趙昌筆 南宋時代 後期のみ展示
  - 煙寺晚鐘図 伝牧谿筆 南宋時代 前期のみ展示
  - 竹林山水図 伝夏珪筆 南宋時代
  - 躑躅図 尾形光琳筆 江戸時代 前期のみ展示
  - 扇面月兔画賛 本阿弥光悦筆 江戸時代
  - 竹林七賢図屏風 雪村周繼筆 室町時代
  - 唐物茶入 銘 星肩衝 南宋時代
  - 古瀬戸肩衝茶入 銘 畠山 室町時代
  - 井戸茶碗 銘 細川 李朝時代
  - 柿の蒂茶碗 銘 毘沙門堂 李朝時代
  - 赤染茶碗 銘 雪峯 本阿弥光悦作 江戸時代
  - 赤染茶碗 銘 早船 染長次郎作 桃山時代
  - 小堀遠州作 共筒茶杓 銘 青苔 江戸時代
  - 備前火櫛水指 桃山時代
  - 志野水指 銘 古岸 桃山時代
  - 金襴手六角瓢形花入 景德鎮窯 明時代
  - 古銅象耳花入 明時代
  - 伊賀花入 銘 からたち 桃山時代
  - 錆繪富士山香炉(朝・昼・暮三態) 野々村仁清作
  - 青磁桃香合 銘 三千歳 龍泉窯 明時代
  - 天命責細金 室町時代
  - 唐物籐組炭取 明時代
  - 青貝火焰宝珠文四方盆 明時代
  - 黄瀬戸輪花平向付 桃山時代
  - 古赤絵刀馬人物文鉢 景德鎮窯 明時代
  - 色絵菊透鉢 尾形乾山作 江戸時代
  - 古備前徳利 銘 五郎 桃山時代
  - 紅菱花時絵硯箱 尾形光琳作 江戸時代
  - 菊枝時絵手箱 鎌倉時代
  - 蓬 山時絵沈箱 鎌倉時代
- 前期(10月4日~19日)と後期(10月20日~11月3日)で一部展示替えがあります。



重文 金銀泥四季草花図下絵和歌巻

一般 800円	個 人	観覧料
大学生 600円		
高中小生 300円		
一般 650円	団体 (20名以上)	
大学生 500円		
高中小生 200円		

**講演会** 聴講無料

演題 畠山即翁の茶器蒐集と茶話

講師 武内範男氏

（畠山記念館主任学芸員）

日時 10月5日(日)午後1時30分

会場 当館ホール



重文 伊賀花入 銘 からたち



重文 志野水指 銘 古岸

常設展示室(前田育徳会展示室)

# 特 集 尊經閣文庫名品選

10月3日(金)~11月3日(月・祝)

●=国宝 =重要文化財

前田育徳会の尊經閣文庫には多くの名品が収蔵されています。その中には収集したものと育成したものがあります。これらの収蔵品を二十年にわたり前田育徳会展示室で順次展示してきましたが、本年は開館二十周年ということで、それらの中から名品を選びすぐり展示します。

まず、三代藩主利常が収集した、藤原定家が蓮華王院宝蔵に伝わった紀貫之自筆本と称せられる土佐日記を書写した国宝「土佐日記」、平安時代に書写されたもので桂本と並んで名高い国宝「万葉集 巻第三、巻第六残巻(金沢万葉)」、青表紙本の原本と目されている重文「源氏物語 花散里 柏木」をはじめとする名品もまた、前田家に伝わる古筆の冊子本の表紙には名物裂がかけられて蒔絵の箱に納められていますので、「貝時絵箱(唐物語箱) 伝五十嵐道甫作をはじめとする箱を九点展示します。

さらに、五代藩主綱紀が工芸諸分野の標本を製作させると共に各地方の産物見本を収集し、分類整理したもので、工芸技術、意匠の資料として価値が高い重文「百工比照」も展示します。

収集、育成された美術工芸品の精華をご覧下さい。  
主な展示作品

●土佐日記 藤原定家筆 (10月3日~10月17日展示)

●万葉集 巻第三、巻第六残巻(金沢万葉) (10月18日~11月3日展示)

兼好家集稿本 吉田兼好筆

元輔集 藤原定家ほか筆

源氏物語 花散里 柏木

閑居友

百工比照 金色類 蒔絵梨子地塗色類 色漆類

革類 金具類(引手 釘隠 擬宝珠)

天神画像 後水尾上皇賛

屏風蒔絵箱(土佐日記箱) 伝清水九兵衛作

貝時絵箱(唐物語箱) 伝五十嵐道甫作

今回の二階の各展示室では、開館二十周年にあたり、すでに二千七百点を超えるまでに集積された館蔵品の中から、今回はさらに選りすぐった優品をご覧いただくとするものです。

そもそも、県立美術館としては昭和三十四年に開館した旧石川県美術館(現石川県伝統産業工芸館)が、日本海側で設計当初から美術館として建設された第一号であったことから理解できるように、石川県は早くから美術工芸を中心とする文化立県として、他の地域にない藩政時代以来の歴史と伝統を活かすべく努力を重ねています。

そうしたことが、古美術部門では国宝一点と重要文化財六点をもち、また近現代部門では日本芸術院会員や重要無形文化財保持者をはじめとする多くの優れた作家の代表作が集積する原動力となったことは間違いありません。

そして、この地域の特徴があるが故に、所蔵品としては、いたずらにピカソやルノワールといった西洋絵画などを購入することなく、地域の文化の特色をしつかりと踏まえた収蔵方針のうえで、企画展では内外の多岐にわたる展覧会を開催するという運営を行い、関係者の高い評価を得てきたところです。

周知のように日本美術の多くは展示日数に制約を持つものが多いのですが、今秋は二十周年にふさわしく、各分野の代表作をそれぞれの展示室でまとめてご覧いただくように調整を行い、第1展示室の国宝「色絵雉香炉」及び重要文化財の「色絵雌雄香炉」(ともに野々村仁清作)を含めて約百五十点の優品が展示されます。この後、当館を代表する所蔵品がこれだけとあって展示される機会はほとんどありません。「美術館の実力は常設部門にあり!」とは、美術愛好者の合言葉ですが、普段見逃しがちな方も改めて当館の二十年の歩みとも言うべき二階の展示室をご覧ください。



熱叢夢 宮本三郎



鹿下絵和歌(新古今集) 本阿弥光悦

常設展示室(第2~6展示室)

# 特 集 秋の優品選

10月3日(金)~11月3日(月・祝)

常設展示室

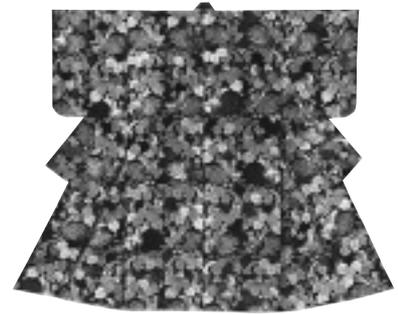
# 主な展示作品

10月3日(金)~11月3日(月・祝)

● = 国宝  
○ = 重要文化財  
□ = 石川県指定文化財



飛鳥をとめ 安田鞆彦



緑地桐鳳凰文唐織

## 前田育徳会展示室

特集 尊經閣文庫名品選

4ページを「覧下さい」

### 第1展示室

- 色絵雄雉香炉
- 野々村仁清
- 野々村仁清
- 色絵雌雉香炉
- 野々村仁清

### 第2展示室(古美術)

- 特集 秋の優品選(第2~6展示室)
- 色絵梅花図平水指
- 野々村仁清
- 尾形光琳
- 蒔絵和歌の浦図見台
- 伝清水九兵衛
- 蒔絵菊慈童図象籠箱
- 伝五十嵐道甫
- 鹿下絵和歌(新古今集)
- 本阿弥光悦
- 竹蒔絵浪に亀図二重切花入
- 千利休
- 緑地桐鳳凰文唐織

### 第3・4展示室(油彩画・版画・彫塑・造形)

- 油彩画・版画
- 1982年私
- 鴨居玲
- 竜の八十唄
- 庄田常章
- アラブの旅
- 高光一也
- とべ
- 田賀亮三
- アルパニアの花嫁
- 裕伊之助
- 見透せぬ窓A
- 前田さなみ
- 馬ならぶ
- 南政善
- 熱叢夢
- 宮本三郎
- ライジングサン・パイオレット
- 勝本富士雄
- 彫塑
- 矩幸成

## 酔っぱらい

人魚

山羊を飼う老人

### 第5展示室(工芸)

- 陶磁
- 坂坦道
- 松田尚之
- 吉田三郎
- 黒絵魚紋丸壺
- 耀彩鉢「極光」
- 十代大樋長左衛門
- 三代徳田八十吉
- 漆工
- 蓬之棚
- 松田権六
- 三谷吾一
- 海の詩
- 染織
- 遊童図
- 友禅訪問着「群鷺錦秋」
- 木村雨山
- 羽田登喜男
- 金工
- 砂張銅鑪
- 初代魚住為樂
- 米沢弘安
- 金銀象嵌紅葉狩図香炉
- 木竹・截金
- 桑造金銀縮線象嵌軸箱
- 水見晃堂
- 西出大三
- 木彫截金扇面秋の合子

### 第6展示室(日本画)

- 山里
- 石川義
- 拾牛図
- 橋本閑雪
- 鶺鴒
- 畠山錦成
- 丘の家族
- 羽根万象
- 飛鳥をとめ
- 安田鞆彦
- 長江の朝
- 横山大観

一般 350円	個人	観覧料
大学生 280円		
高校生以下は 無料		
一般 280円	団体(20名以上)	
大学生 220円		
高校生以下は 無料		



蓬之棚 松田権六



山羊を飼う老人 吉田三郎



アラブの旅 高光一也

## 第33回文化財現地見学

～飛鳥・室生の里を訪ねて～

### 参加者募集!

期 日 10月18日(土)～19日(日)  
一泊二日。宿泊は橿原市  
参加費 22,000円  
募集定員 45名(対象は原則として成人)

#### 見学予定地

##### 橘寺(明日香村)

聖徳太子生誕の地に、太子が建立した寺。人の心の善悪二相を表したといわれる二面石がある。聖徳太子勝鬘経講讃像(重文)・如意輪観音菩薩像(重文)他。飛鳥寺(明日香村)

飛鳥時代の豪族、蘇我馬子が596(推古4)年に建立。鞍作止利が作った日本最古の丈六の仏像、飛鳥大仏(重文)がある。

##### 奈良県立万葉文化館(明日香村)

『万葉集』を中心とした古代文化に関する展示と図書・情報サービスを活用し、楽しみながら学ぶことのできる機能と魅力を備えた総合文化施設。

常設展「万葉日本画展 飛鳥を彩る歌人たち」

「明日香風 鳥頭尾精の世界展」

##### 安倍文殊院(桜井市)

天ノ橋立切戸の文殊、山形県亀岡の文殊と並ぶ日本三大文殊の一つ。阿倍倉梯麻呂が、阿部一族の氏寺として建立。快慶作の文殊菩薩(重文)・善財童子像(重文)・優填王像(重文)・須菩提像(重文)がある。

##### 聖林寺(桜井市)

藤原鎌足の長子定慧の開創と伝えられる。本尊は丈六子安延命地藏で、安産、子授けの地藏として信仰されている。天平時代に作られた木心乾漆十一面観音立像(国宝)がある。

##### 室生寺(室生村)

女人禁制の高野山に対し、女性の参詣を許したことから「女人高野」と呼ばれ親しまれている。五重塔(国宝)・金堂(国宝)・釈迦如来立像(国宝)・十一面観音菩薩像(国宝)など、他多数所蔵。

#### お申し込みの方法

例年参加ご希望の方が大変多いため、事前に参加希望者全員の立ち会いのもとで厳正な抽選を行い、申し込み者を決定させていただいております。当選の方はその場でお申し込みを受付いたします。今回の抽選会は10月12日(日)の予定です。ご希望の方は当日午前10時30分までに当館ホールへ直接ご来場下さい。当選された方はその場で参加費をお納め下さい。

#### ご注意

抽選会出席者以外の方のお申し込みは一切お受けいたしません。

参加希望者一名につき、必ず一名ご来場下さい。友の会会員の方は会員証を必ずご持参下さい。

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は必ず当館へご連絡していただきます。その後当館より、キャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りしていきます。二日間にわたり長時間のバス移動があり、また相当の距離を歩くこととなります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合、特に足腰に自信のない方は、今回の参加をご遠慮下さい。



昨年度見学地  
谷崎潤一郎記念館  
(芦屋市)

## 展覧会回顧

### 戦後工芸の展開(3)

### 石川の昭和40年代



昭和40年代における石川の工芸に焦点を当てた今回の特別陳列は、前回(30年代)や前々回(20年代)同様、その当時リアルタイムで見られなかった作品を一堂に会することにより、当時の時代的な雰囲気をご大いに感じさせてくれました。

40年代前半の日本は、ちょうど高度経済成長期にあたります。それに比例して海外の名品を中心とした大型展覧会が、全国各地で続々と開催されていた時期でもあります。工芸の世界でも、日展や日本伝統工芸展が軌道に乗り始め、出品点数の増加とともに、それらへ興味関心を持つ人々の裾野が、より大

きく広がっていった頃といえるでしょう。これらのことは、作家たちにも励みになったと思われます。そしてその頃の県内工芸作家たちはどのような活動をし、技を競い合っていたのか、その様子の一端を垣間見てみようというのが今回の大きなねらいでした。また、今では斯界の重鎮となっている作家たちの若き日の作品はいかにあったのか、個々の作家の作歴を辿ってみたい、といったことなども興味ある点でした。

作品の所在調査や出品交渉を進めていく中では、行方が分からないなどの理由で、やむなく出品を断念したものも少なくありません。それは予想以上の厳しさでしたが、どうにか42名の作家とその代表作47点を揃えることができました。とりわけ井波、板坂、廣瀬、金丸、瀬戸作品(いずれも個人蔵)などは、出品された当時の展覧会以来30数年ぶりの紹介となり、「思いがけず懐かしい作品に出会えた。見に来てよかった。」との声もあちこちで聞かれました。

改めてご協力をいただいた関係各位に、深く感謝申し上げます。

## ギャラリーコンサート

開館二十周年記念行事の一つとして、初めて展示室を会場にしての、モーニングコンサートを開催いたします。通常の開館時間前に参加者のみ入館していただき、美術作品に囲まれた中で、爽やかなハーブの調べを堪能していただくとするコンサートです。また、コンサートの後、別記にあります優品のそろそろ多くの展示もあわせてご鑑賞ください。

【タイトル】ハーブによる朝の調べ

【演奏者】上田智子

【日時】10月18日(土)9時~(約30分の予定)

【会場】常設2階第4展示室

【募集定員】80名(入場整理券が必要)

応募は会員以外の方でも結構です。

【入場料】常設料金(友の会会員は常設入場券の利用可、高中生無料)

【演奏曲目】トゥルニエ / 4つのプレリュードより  
 フォスター / 夢路より  
 モーツァルト / グリッサンドワルツ  
 木村 弓作曲 / いつも何度でも ほか

【応募先】〒920-0963 金沢市出羽町2-1  
 石川県立美術館コンサート係

【応募方法】

往復ハガキでご応募いただき、入場整理券を発行いたします。応募多数の場合は抽選となります。

往信用ハガキの裏面には「ギャラリーコンサート希望」と明記し、住所・氏名・年齢をお書きください。返信用ハガキの表面には、返信先(住所と氏名)をお書きください。

返信用ハガキの裏面には、入場整理券として印刷する部分ですので、何もお書きにならないでください。次の注意事項をお守りください。

応募資格は中学生以上に限ります。

・入場者1名につき、往復ハガキ1通でご応募ください。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますので、ご注意ください。

・当館からの返信は、再発行いたしません。

【応募締切】10月6日(月)必着分まで。

## 移動美術展 今年度は富来町で開催

今年度の移動美術展は富来町で開催されます。富来町では第2巡目の展覧会になり、今回も日本画・油絵・水彩・素描・版画・彫刻の各分野より全43点を展示します。

移動美術展は、県立美術館の所蔵品をそっくりそのまま県内の各会場へ移動し、展示するかたちで行われており、毎回、開催地近隣の学校団体をはじめ、たくさんの方々にお越し頂いております。能登各地にお住まいで、なかなか美術館まで訪れる機会がない方々、今年度は移動美術展富来展までお越しください。素晴らしい作品がそれぞれに持つ迫力・魅力を間近で感じられる絶好のチャンスとなっております。

また、富来展会期中は美術館で日曜日に行っております美術映画の上映も毎日行う予定です。この機会をお見逃しのないように。皆様のご来場をお待ちしております。

移動美術展 富来展  
 会場 富来町地域活性化センター  
 会期 10月10日(金)~17日(金)

主な展示作品

幻花	梅川三省
漁村好日	奥田憲三
酔って候	鴨居 玲
セーヌ川遠望	田辺栄次郎
鼓	宮本三郎
御陣乗太鼓	坂 坦道
	他全43点

## 10月の行事案内 《入場無料・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内 容	会 場
10/4(土)	土曜講座	畠山記念館名品展より やきもの (南 俊英 学芸第一課長)	講義室
10/5(日)	講演会	畠山即翁の茶器蒐集と茶話 講師 武内範男氏(畠山記念館主任学芸員)	ホール
10/11(土)	土曜講座	近代の数寄者 益田純翁を中心に (高嶋清栄 学芸専門員)	講義室
10/12(日)	月例映画会	利休の茶(45分)	ホール
10/18(土)	ギャラリーコンサート	ハーブによる朝の調べ 9時より30分間 トゥルニエ作曲 4つのプレリュード、フォスター作曲 夢路より ほか 演奏 上田智子 常設展入場料と入場整理券が必要です	第4展示室
	土曜講座	中国宋代の絵画 畠山記念館名品展出品作品を中心に (村上尚子 学芸員)	講義室
10/19(日)	連続講座	開館20周年記念連続講座 美術館よもやま話 加賀藩の尊経閣文庫 講師 嶋崎 丞(当館館長)	ホール
10/25(土)	土曜講座	畠山記念館所蔵品より 野々村仁清とその作品 (寺川和子 学芸主任)	講義室
10/26(日)	月例映画会	利休の茶(45分)	ホール

10月の全館休館日は1日(水)・2日(木)です。



身内側



蓋裏



蓋表

## 蒔絵螺鈿白楽天図硯箱

江戸時代 18世紀

尾形光琳 万治元年(1658)~享保元年(1716)

幅22.5 奥行23.5 高5.5(cm)

光琳が私淑した光悦作品の強い影響を受けながらも、光琳独自の新様式を確立した秀作で、資料としても極めて価値が高く、加賀藩八家の一つ横山家の伝来品です。

光琳が私淑した光悦作品の強い影響を受けながらも、光琳独自の新様式を確立した秀作で、資料としても極めて価値が高く、加賀藩八家の一つ横山家の伝来品です。

白楽天や漁翁、松樹の構図は、重文旧小西家旧蔵の光琳画稿にすでに見えており、これと同じテーマになる屏風絵が早くから知られています。画稿から見るとやや間延びした感が免れず、画稿と硯箱の寸法が極めて近いところから、画稿はまさにこの作品制作のための原図と見て過言でないと思われま

す。

白楽天や漁翁、松樹の構図は、重文旧小西家旧蔵の光琳画稿にすでに見えており、これと同じテーマになる屏風絵が早くから知られています。画稿から見るとやや間延びした感が免れず、画稿と硯箱の寸法が極めて近いところから、画稿はまさにこの作品制作のための原図と見て過言でないと思われま

謡曲「白楽天」に取材した作品で、唐の詩人白楽天が海路日本に渡来し、漁翁の姿をとる住吉明神と、中国の詩と日本の歌について、問答を交わすという幻想的な場面を描いています。

方形丸角被蓋造りの典型的な光琳様式の硯箱で、蓋表は唐船に乗った白楽天と船頭を描き、蓋裏は船に乗って問答を交わす漁翁を動きのある姿で表現しています。人物の衣装、船、蓋表左上の岩山、身の右半分を描かれた松樹の松葉などは鉛板を貼って豪快に表現し、蓋表や裏の人物は、顔、手、足等の肌の部分に螺鈿の技法を用いています。鉛板の文様は線彫りと蒔絵の技法を併用し、線彫りの部分には金粉を施した様相が見られますが、今はそのほとんどが剥落しています。人物の肌の螺鈿には、顔や肌の表情を表すため毛彫りを施し、一部には黒漆を埋め、さらに螺鈿の表面に黒漆で皺などを描いています。

地文様は、黒漆地に金蒔絵で光琳特有の見事な筆致で、うねりのある波文様を大胆華麗に描き、その波文様は蓋の表裏や身の内側や側面へと連続し、作品を豪華に飾っています。身の内側と底面は金の沃懸地仕上げで、裏面中央のやや下方に「青々光琳造」の銘が記されています。

### 畠山記念館名品展関連行事

#### 講演会 聴講無料

演題 畠山即翁の茶器蒐集と茶話  
 講師 武内範男氏(畠山記念館主任学芸員)  
 日時 10月5日(日)午後1時30分~  
 会場 当館ホール

#### 石川県民大茶会

開館20周年記念事業として、石川県立美術館の館収蔵の茶道美術品を使用した「石川県民大茶会」を開催します。

日時 10月7日(火)午前11時~午後3時30分  
 10月8日(水)午前9時~午後3時30分  
 会場 兼六園・時雨亭  
 料金 兼六園入場料300円、時雨亭呈茶料700円 合計1,000円をお支払いいただければどなたでもご参加いただけます。ただし、参加者多数の場合、入席を制限することがありますので、兼六園に入園される前に時雨亭の状況をお訪ねになってから入園してください。

### 次回の展覧会

- 特集 婚礼調度の美 (前田育徳会展示室)
- 特集 石川県の名宝 (第2展示室)
- 特集 風景画を楽しむ (第3展示室)

11月7日(金)~11月30日(日)

休館日:10月1日(水)・2日(木)

石川県立美術館だより 第240号

2003.10.1発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>